

杉並区長 田中 良 殿

新型コロナウイルス感染者の爆発的拡大への対応に関する緊急申し入れ（第9次）

2021年8月18日

日本共産党杉並区議団

杉並区においても、8月以降、新型コロナウイルス感染者の爆発的拡大が起きており、杉並区が深刻な事態にふさわしい対応をとるよう、緊急に申し入れるものです。

杉並区の1日当たりの平均新規感染者数は、7月1日からの2週間は39人でしたが、8月1日からの2週間では217人と、わずか1か月で5.56倍に劇的に急増しています。発熱等による受診・相談センターへの相談件数も、7月初旬の1日50～60件から8月初旬には200件近くに急増しています。

さらに深刻なことは、病院、療養施設に入ることができず、自宅療養を余儀なくされている人が1000人を超える事態となっていることです。

日本共産党杉並区議団には、区民、感染者と家族、地域の診療所から、発熱相談の電話が通じない、保健所で対応できない方から診療所に相談が殺到している、在宅療養しているが専門の相談窓口を開設してほしい、食料の配布が遅れているなどの切迫した声が寄せられています。また、医師からは、通常医療を行いながらワクチンの集団接種も協力しているが、その上自宅療養者への往診といわれても大変などの声も寄せられています。

こうした事態は、保健所職員などの献身的な努力はあっても、杉並区の現在の体制、これまでの対応の継続では、区民の命が救えない状況となっていることを示しているのではないのでしょうか。

日本共産党杉並区議団は、いまこそ杉並区が、感染防止のためのワクチン接種の推進、PCR検査の大規模実施などの対策強化とともに、区民の命を救うために、あらゆる手立てをつくすことを緊急要請します。

記

1. 発熱等の症状が起きた場合の受診・相談センターの電話相談体制を緊急に拡充すること。
2. 保健所の体制を抜本的に強化するとともに、区の総力をあげた支援体制を組むこと。
3. 自宅療養者が、病院、療養施設へ入所ができるよう、施設確保に全力を尽くすこと。
自宅療養者への相談、往診、オンライン診療などの体制を確立すること。食料支給など生活支援もすみやかに実施されるようにすること。
4. 地域の診療所や、医師・看護師等医療関係者に対し、事態と対応への理解と納得を重視しつつ、患者急増対応への協力を求めること。また医療機関の実情を把握し、必要な支援も行うこと。
5. 緊急的対応に万全をつくすために、補正予算を含め、必要な財政措置をとること。

以上